

ふくりゅう

発行所 NPO日本下水文化研究会
 発行責任者 酒井彰 (運営委員代表)
 発行年月日 平成12年7月10日
 印刷所 株式会社 愛甲社
 編集 小松建司
 春号 (通巻第18号)

今年のパルトン忌は8月4日開催

今年のパルトン忌は8月4日(金)の13時から開催されることとなりました。墓参なされる方は13:00までに霊園内花屋さん前に集合してください。墓前ではバグパイプの演奏が予定されています。その後、会場を変えてシャーロックホームズの研究者であります石井貴志氏(シャーロックホームズ協会)の「パルトン先生とゆかりの人々」の講演があります。

講演受付開始 14:00
 会場: 青山AAビル「コンフォート」
 地下会議室(入り口側)
 時間: 14:30~16:30
 講演終了後親睦会がございます。
 詳細については次号にてお知らせいたします。

2000・雨水フェア in すみだのお知らせ

昨年にも参加した雨水利用を推進するこのフェアに今年も基調報告「雨から遠ざかった都市生活」という講演を会代表・酒井彰氏が参加します。

昨年起きた都市型洪水を教訓としてなぜ町が雨に弱くなってしまったのかを都市の構造、気象及び地下開発から検証し、雨水利用の有効性について多くの市民の方と考えるがテーマです

みなさま時間がございましたら参加してみてもはいかがでしょうか。

日時 2000年8月5日(土) 午前9時~午後5時
 会場 墨田リバーサイドホール

参加費 500円
 主催 雨水利用を進める全国市民の会
 共催 墨田区
 後援 東京都建築士事務所協会、日本下水文化研究会、雨水貯留浸透技術協会、UNEP、IETC、ICLEIAアジア日本事務所

11時20分頃~12時10分頃まで
 ◆基調報告2
 「雨から遠ざかった都市生活」
 日本下水文化研究会代表・流通科学大学教授
 酒井彰

日本下水文化研究会のホームページが立ち上がる

かねてよりの課題であったホームページについて、山出運営委員の尽力により取りあえず立ち上げることができました。ホームページアドレスは現在の所(仮)であり、まだまだ完成されたものとはなっていませんが、一度は見てください。また、こんな話題をと、ホームページに関するご意見や、当会に

対するご意見を頂けたらと思います。

ホームページアドレス
<http://www.jca.apc.org/~yamade/top.htm>

e-mail アドレス aan63630@syd.odn.ne.jp

平成12年度第1回定例研究会 関西で開催される

平成12年6月10日(土)に京大会館で第1回定例研究会を開催致しました。今回は、関西で始めて開催する定例研究会で、関西にいらっしゃる講師3名をお迎えしました。講演は『洛中塵捨場今昔』 山崎達雄氏、

『上賀茂明神川にかかわる生活の今昔』勝矢淳雄氏、
 『近世三都の水事情—大坂・江戸・名古屋—』 山野寿男氏
 の3題で50名を上回る参加者がありました。詳しくは次号に記載します。

第4回総会開催される

NPO 法人となって初めての総会(第4回総会)が、平成12年5月27日(土)に水道協会会館会議室において開催されました。

総会に先だつて NPO 法人 環境文明21 代表 加藤三郎氏による「地球環境問題と循環社会の創造」と題する講演が行われました。

と題する講演が行われました。

総会は、出席者及び委任状数が規定数を超えましたので成立しました。各議案説明がなされた後質疑応答があり、総会は無事終了しました。

会費の請求について

現在12年度の会費請求について準備を行っていますが遅れています。NPO 法人になって、振込先の変更の必要性が生じたためです。

振込先は、次の通りになりますので、今までの振込先を変更してください。

郵便振込 00120-8-164432

特定非営利活動法人 日本下水文化研究会

銀行振込 富士銀行本店東京都庁出張所

普通預金 2323883

特定非営利活動法人 日本下水文化研究会

平成11年度第3回定例研究会

「水質基準に見る欧米の影響」

早川先生のご講演ということで、公衆衛生院で一時期お世話になった私は、お顔拝見がてら出席させて頂いた。ご自分の蔵書、経験をもとに示唆に富んだ興味深いお話であった。以下、僭越ながらレジメの簡単な紹介と私の感想を記させて頂く。

1. 明治・大正時代の近代水道と水質認識

日本の近代水道はコレラ等水系伝染病対策のために創設されたが、これには横浜居留外国人対象の水道建設、対外効果をねらう外務大臣の判断による建設といった背景があった。また、日本の水道創設に関わったイギリス人技術者は水質の専門家ではなく、施設建設と水質分析を切り離れた彼らの考え方に日本も影響を受けた。

2. 法定水質基準の不在

明治23年の「水道条例」から大正10年の認可申請書への水質分析表添付の規定まで、法定水質基準は存在しなかったという。

水道=水質という認識を持っていた私にとって非常に驚かされた事実である。

3. 外圧による水質管理

第二次大戦後は水道管理に於いても進駐軍先導であり、米軍兵士の飲料水確保のため塩素消毒強化が図られた。日本としては、その技術を利用するという形態で、昭和25年に水道協会より「試験方法」が出版される。

4. 衛生面を強調した「水道法」の成立

上水道が厚生省の管轄と決まった昭和32年、やっと水質基準を定めた水道法が成立した。その当時も

その後も水質については常にアメリカの基準が参考にされている。

5. 国際機関での水質規格

1958年WHOは世界の国々が最低限実現すべき水質として「世界基準」を定める。その後「ヨーロッパ基準」を経て、1984年に「飲料水水質ガイドライン」を策定した。①水はないよりあったほうがよい、②厳しい基準が得られる水を制限する可能性がある、③各国で「リスクベネフィット解析」を導入してほしい、という思想の転換である。

確かに世界的に観れば、水質云々よりも、生活に最低限必要な水量の確保さえも困難である人口の割合はまだまだ高い状況にあるわけで、それらの国々において、水質基準を満足しないから水が使えない、というのは不条理な話である。しかし、浄水処理技術においてはガイドライン値のクリアーは容易なはずの日本において、では③のリスクベネフィット解析が取り入れられているか、あるいは取り入れる基盤があるかという、それには大きな疑問が残る。

6. アメリカにおける水質基準

1996年、アメリカの水質基準改定では「ベネフィット-コスト解析」が採用された。基準を満たすための費用がその便益を上回ると基準が緩められることがあり得る、ということだ。このアメリカ的な発想に外圧に弱い日本はやはり右へ習えをするのだろうか？あるいは右へ習えが出来るのだろうか…？

昔も今も変わらない受動体の日本とその国の水道。クリプトや環境ホルモンといった水質問題が山積す

る今日、日本の水質基準の将来は？そのidentityの確立は？と危惧を抱く次第であった。

講演後には、先生ご自身が収集されたという水道に関する古書を多数拝見させていただいた。水道関係に限らず、古書収集はご趣味だそうで、造詣の深

さに感服。大切な資料をありがとうございました。水道に携わる者として貴重な知識を取得出来た、実りある時間であった。

(株)東京設計事務所 水道部 長岡千晶

『東京都の清掃技術—その原点を語る—』

石井 明男

東京都の清掃事業は一部の事業を残して、平成12年4月に東京都から特別区に移管した。節目となるこの機会に、清掃局の技術系職員は、事業の一環として清掃の技術史とも言うべき、『東京都の清掃技術—その原点を語る—』をまとめ、冊子として自費出版した。

東京都清掃局で、主として清掃工場等の日々の運用をしていくなかで、時には新技術の開発や導入に係わり、時には清掃工場や埋め立て地の建設をし、また清掃事業の計画や、工事発注のプロセス、公害対策、熱利用、省エネ、省力化などを検討をし、そしてこれを生業としてきた。これらの活動が築き上げてきた清掃技術という巨大な建造物が、時代とともに、風化していくことがとても残念であり、これまでの経緯を若い人に伝える意味もあって、清掃局の技術屋が歩んだ道を清掃局のOBに語ってもらい、これをまとめることとした。

まとめる手法は「聞き書き」で、OBに臨場感のある地に足のついた、単なる思い出話とは違う技術的な体験を語ってもらった。テーマ毎にOBを招き、話し手は28人、18回の対談、或いは座談会で、16の話にまとめた。本文が約290頁、資料約110頁、全体で400頁の本となった。

内容は、昭和30年代のバッチ式の固定炉時代、技術職員が清掃工場に初めて配属された時の苦勞、バッチ炉から機械式連続炉へ移行するときの大変革に対する技術的な迷いと一つ一つ新しい技術を選択していった過程、ごみ焼却に機械工学の知見を導入し、ごみ焼却炉の性能に係わる課題を整理した平山直道先生(都立大名誉教授)の話、公害問題に清掃局が対応した技術・政策等のこと、清掃工場建設工事にあたり、効率的な建設と民間の知恵を活用できる先駆的な「性能発注方式」を充実させるため、清掃局が独白で作成した発注仕様書とそれに基づく最初の工事である葛飾清掃工場の建設、何ととっても大きな

影響を与えた美濃部都政時代の「ごみ戦争」宣言で従来のごみ行政が一変した話、時代の流れでごみの性質が変わり、次々に新技術を導入し、また、現場から技術的改善を加え進化していった清掃工場の技術

のこと、煙突が座屈し清掃局内に「煙突研究会」を作って、メーカーに全く依存せず問題を解決し全国に影響を与えた現場中心のプロジェクトチームの活動、省力化を目指した清掃工場の自動化技術、大田第二工場の熔融技術を採用するに至った経緯、埋め立て地の建設に25年以上携わった技術者の経験、コンポストに取り組んだ経験、戦争中し尿処理が出来ずに郊外まで鉄道でし尿輸送したこと、戦後し尿処理に下水道局の技術による砂町消化槽を造り難局を解決したことなどし尿行政の変遷、ごみとし尿を専門に研究した清掃研究所

の話、ごみカロリーの議論、と大変広く興味ある話題に満ちた内容である。

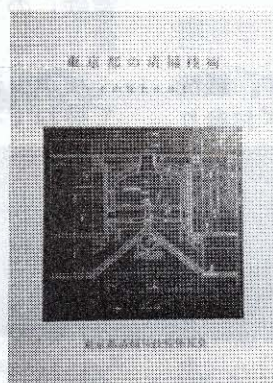
特に、ごみ発電電力を東電に売電できるよう、様々な立場からなされた努力や、煙突からの騒音、排水中の重金属、排ガス中の塩化水素、窒素酸化物、水銀、ダイオキシンと次々に発生する公害問題への真摯な対応には頭の下がる思いであった。

当初は不安もあったが、多くの知らない話題、聞いたことのない内容が発掘できて大変意義深い仕事であった。

東京都の清掃技術が清掃行政の変遷のなかで、一つに新しい課題に取り組み、技術としても最先端の技術を取り入れ、気概を持って、常に日本の清掃技術をリードしてきたことが改めてわかる内容となっている。先人の活動や選択がその時々時代の背景などでどのように位置づけられたのかが読みとれる。

是非多くの人に読んでもらい、清掃技術の変遷の一端に触れていただきたいと思います。

本は日本下水道文化研究会事務所で読むことができる。



分科会し尿研究会報告

小松建司

し尿研究会は早いもので第7回目の発表を迎えた。7回目の6月9日は地田修一氏の「郷土史資料にみ

る下肥の流通と肥船」ということで写真や図を用いて発表がなされた。金肥といわれ、とても大事にさ

れてきたし尿がたどった最後は、廃棄物でその処理に困るまでの足跡を垣間見ることができ、活発な意見交換がなされた。

最後に地田氏をこの分科会の会長にする事に全員一致で決定した

過去の発表

第1回(H10/10/3)史料でみる東京のし尿処理の変遷 石井明男氏

第2回(H11/1/29)し尿の嫌気性消化処理と消化汚泥のコンポスト化について 地田修一氏

第3回(H11/4/16)東京市綾瀬作業所概要 鈴木和雄氏

第4回(H11/9/3)世界のトイレ見聞記 鈴木清志氏

第5回(H11/12/10)「都繁盛記(天保9年)」にみるくみ取りの状態 森田秀樹氏

第6回(H12/3/3)糞尿史—遷都は糞尿汚染からの逃避だった 鈴木和雄氏

第8回は平成12年9月8日(金)18:30より事務所でを行います。関野勉氏の「下水とトイレトペーパー」です。お楽しみに。

弁天様と水を訪ねて(三)

栗田 彰

箱根・深澤弁財天

箱根登山鉄道「塔之沢駅」の小田原方面行のホームと地続きの所に「深澤弁財天」があります。銭洗弁財天の赤い幟が立っていますが、わざわざお参りに来る人は少ないのではないのでしょうか。電車を待つ間に覗いてみるという所のような気がします。樹木が鬱蒼と茂る薄暗い境内に弁天様の祠がいくつもあります。池の前に岩を組んだ上にあるのが二つ、奥のほうには岩屋の中にも祠があります。

岩屋の中の祠には、よく神社で見かける丸い鏡が置かれていました。池の前の祠の中は一社は同じような丸い鏡で、もう一社は岩が置かれています。

ご神体が丸い鏡ですとか岩ですとお寺さんではなく、どこかの神社がお祀りしているのかも知れません。

「深澤弁財天」の「深澤」にどういう意味があるのか、説明板もなければ、人も居りません。祠の前に張られた幕に「深澤あつ子」という奉納者名が染められています。「深澤あつ子」という方が個人的に祀った弁天様なのかとも思いましたが、境内にたくさんぶら下がっている白い提灯には「小田急



深澤弁財天

電鉄」の文字と旅館名が書かれています。小田急が観光資源として祀ったのかとも思えます。

箱根町郷土資料館へ行って「深澤弁財天」について尋ねてみましたが「詳しいことはわかりません。

塔之沢の駅前のお店屋さんでお守りをしているのでそこへ行けばわかると思います」と教えてくれました。その日は他に用事があったのでまだ訪ねてはおりませんが次の機会には是非訪ねてみようと思っています。

郷土資料館でチラッと見たガイドブックには「深澤弁財天」は江戸時代から祀られていると書いてありました。箱根には私も何度も行っているのですが、若いときから箱根登山鉄道には乗っていたはずですが「塔之沢駅」に弁天様が祀られているのを知ったのは、ほんの数年前のことです。若いときは弁天様に関心がなかったか

ら気がつかなかっただけなのかも知れませんが「塔之沢駅」の弁天様が目立つようになったのはそんなに昔のことではないような気がします。

「塔之沢駅」はトンネルとトンネルの間にある駅ですから、弁天様のまわりは山の傾斜地で、水はかなり豊富に湧き出ています。早川の水源の一つになっているのでしょう。

原稿募集

「ふくりゅう」では、原稿募集を行っております。◎紙上研究発表◎現在お住まいの地域情報◎水に関する情報等 連載物も可です。

宛先は〒162-0067

新宿区富久町6の5 NJS富久ビル別館

NPO法人 日本下水文化研究会

または、e-mail aan63630@syd.odn.ne.jp

に添付ファイルでお送りください。

編集後記

今回の「ふくりゅう」は職場の異動があったためで大変遅くなってしまいました。

次号からはできるだけ定期的に出したいと思っています。 建